

「三浦市学校教育ビジョン（案）」についてのパブリックコメント結果

- 1 意見等の募集期間：令和元年6月17日（月）～7月16日（火）
- 2 意見等の受付件数：17件
- 3 意見等の内容とそれに対する教育委員会の考え方

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
1	<p>「三浦市学校教育ビジョン」（案）【概要版】に、「中学校の部活動を小学校教員が指導」と記載しているが、以下の理由から行うべきではないと考える。</p> <p>1. 専門性の視点 小学校の教員は中学校の教員免許を持っていない場合もあり、各部活動の指導も中学校教員の専門性に劣る。また、今まで部活動の指導の経験が無いにも関わらず、指導者を「小学校教員が」と限定する必要性が無い。</p> <p>2. モチベーションの視点 小学校教員は、元々部活動ではなく、各教科等の授業で勝負をしたくて仕事をしている方が多く、モチベーションの低下や不満の蓄積、他市への人材の流出が懸念される。</p> <p>3. 働き方改革の視点 小学校教員の日常として、45分間の休憩すら取る時間が無い中、朝早く出勤し、夜遅くまで残業している教員が多い現状において、さらに部活動の指導が放課後に入ると、益々残業時間が増えることが予想される。中学校の教員が小学校で授業を行ったとしても、仕事の負担感が部活に比べ同じように減るようには思えない。また、土日や長期休業中の出勤が突然増え、従来のワークライフバランスを著しく欠くことが懸念される。長期休業中に振替で休日を取ることができても、年次休暇をほとんど消化しきれていないため、さらに年次休暇が余ることも予想される。</p> <p>※参考 経済協力開発機構（OECD）は、本年6/19、日本の小中学校教員の勤務時間が加盟国・地域などの中で最も長いとする調査結果を発表した。1週間当たりの日本の中学校の課外活動（部活動）の時間は7.5時間、小学校の事務作業は5.2時間となっており、共に小中学校それぞれの調査で</p>	<p>今回の学校教育ビジョンでは、これから生きる三浦のすべての子どもたちのために教育を充実させ、教育の質を高めていくことを目指しています。</p> <p>そのことを目指していくためには、何よりも子どもたちが安心して、安全に学校に通い、学校生活を送ることが重要であると考えます。</p> <p>しかし、現実として、中学生になると不登校の人数が増える傾向が全国的にも、三浦市においても見受けられます。</p> <p>この問題の要因の一つとして、小学校から中学校へ進学した時の環境の変化が大きく、学校に馴染めず、休みがちになり、そのことで授業の理解が追い付かなくなり、長期の欠席になっていることが挙げられています。</p> <p>子どもたちが中学校に進んでも、安心して学校生活を送れるよう、環境の変化を和らげてあげる手立てが必要です。</p> <p>学校教育ビジョンで目指す、小中一貫教育の取組の一つとして掲げている「相互乗り入れ授業」は、そのことに対しての有効な手立てであると考えます。</p> <p>小学校・中学校9年間を通して自分を理解し、見守ってくれる先生がいるということは、子どもたちにとって安心して、学校生活ができる大きな要素であると考えます。</p> <p>しかし、相互乗り入れ授業や小学校教員の部活動サポートは、学校や先生方へ新たな負担を生むことも予想されます。</p>

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>世界最長時間となっている。中学校の部活動を小学校教員が行うと仮定すると、単純計算で 7.5 時間増えることが予想され、部活動・事務作業共に、世界最長時間の仕事を小学校教員が担うことになる。</p> <p>それでも「中学校の部活動を小学校教員が指導」することが導入された場合には、以下の点を明確にし、小学校教員が安心と納得のもと部活動を行えるよう配慮して頂くことを希望する。</p> <p>1. サポートの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校教員によるサポート ・ 非常勤職員等によるサポート(教員 OB や地域の人材等の活用) <p>2. 部活動の簡略化等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動日、時間を制限する。 ・ 部活動の種類を厳選し減らす。 ・ 平日は職員または外部顧問が行い、休日は外部顧問が専門指導を行う。 <p>3. 働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スクラップ&ビルドの視点を持ち、部活動の仕事が増えた分、例えば現在負担となっている事務作業や各種行事等を厳選し、教材研究と部活動の時間を確保する。小学校教員の誰もが無理なくプライドを持って部活動を指導できる体制を強化する。 <p>※縮小または廃止、家庭・地域が担うようにしていく業務として希望するもの各種コンクール、漢字検定、市 P 連関連(バレーボール、講演会、会議、懇親会)、登下校に対する対応、早朝・放課後の見回り、調査・統計等への回答、城ヶ島駅伝、青少協</p> <p>4. モデル案の例示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 勤務時間内に、教材研究、分掌、会議、各種行事等と併せて、部活動が本当にできるのかどうかのモデル案(1週間の勤務の流れ等)を例示する。 	<p>県教育委員会との調整・協議を行いながら人的配置の配慮なども行いながら子どもにとっても、教職員にとっても推進しやすい環境を整えていきたいと考えています。</p> <p>小中一貫教育は、三浦市のすべての学校、すべての教職員で一体となって進めていくことが重要です。</p> <p>また、推進のための取組は、先生方の創意工夫のもと多彩であってほしいと思っています。</p> <p>すべての先生方が、自分の持ち味を生かし、三浦の子どもたちのために、積極的に関わっていってくれることを願っています。</p>

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
2	<p>「令和7年度を目途に」とありますが、6年間という期間の中で、どのようにとりくみをすすめていくのかというスケジュールを示すことが急務であると思います。その際には、三崎地区中学校の統合の際には、協議会の中で、実施計画策定を前倒しすることをもとめる意見書が提出されたこともふまえ、検討していただけたらと思います。</p> <p>「9年間を見通した学校教育目標の設定」・「9年間の系統性・連続性を意識した系統的な教育課程の編成」とありますが、これを「いつ」「だれが」「どのように」検討していくのでしょうか。また、これについては、現場の教職員抜きには考えることはできないと思います。おそらく各校の教育課程担当が軸となると考えますが、6年後に確実に学校現場に在るであろう教職員がこの場に行かないと、つながっていかない懸念があります。年齢層を広くとらえて選出していくことが必要だと考えます。</p> <p>「小中一貫教育部会」の新設について、必要性は理解できますが、ただ「増やす」だけでは、現状の市教研が抱えている課題を悪化させることにつながる懸念があります。すでに小規模化により、教職員の数が減っている中で、一人の教職員が複数の部会を掛け持ちしている実態や、代表者がそろっていない、もしくは部会の成果が十分に還元されていないという市教研の課題の解決も充分になされていない中で、部会をただ「増やす」という考えでは、充実した会にはならないのではないかと。思い切って、教科・教科外部会を「統合する」「休止する」といった整理が必要と思います。</p> <p>「小中一貫」は、縦のつながりだけでなく、統合を視野に入れた同じ中学校区の小学校同士の横のつながりを深めていくことも必要と考えます。</p> <p>今後行われるであろう「地域協議会」においては、過去の三崎地区中学校における「三崎地区中学校適正配置協議会」がそうであったように、学校現場からは管理職だけでなく、将来その学校の中核・管理職の立場を担うであろう、現場の教員も含めるべきであると考えます。この新しいとりく</p>	<p>統合に向けた作業・検討が教職員への過度の負担とならないよう、余裕をもったスケジュールで進めたいと考えております。</p>

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>にみついて、ハレーションを押さえ、ソフトランディングしていくためにも、学校現場への入力・出力の場の設定を充分確保していくことが必要と考えます。</p> <p>統合直後には、子どもの精神的なケアのためのＳＣ配置等の手立てが必要と思います。</p>	
3	<p>■パブリックコメント手続きに係る事案に利害関係を有する</p> <p>現在、横須賀市在住ですが住宅購入のタイミングに直面しており、学区をメインに悩んでおります。自分が旭小学校出身ですので旭小学区内の物件を探していますが、子供が在学中に学校が消滅するという事でしたら、こだわる意味がありません。横須賀市内の物件を探すことになります。</p> <p>■限界集落</p> <p>今回の方針では旭小学校は南下浦中学校に統合されるとのことですが、市境近辺から小学生を歩いて通わせるには遠いです。まるで山村や限界集落です。人口減少の影響を最小限にするためとのことですが、私のようにかえって市外への流出のきっかけになってしまうことも事実です。</p> <p>■このまま少子化が進んだら</p> <p>生徒数が減ったから学校を減らすというのは至極当然ですが、中学校が３校だから小学校も３校というのはあまりに計算が単純すぎます。極論ですが、少子化が進んだら市内に小学校中学校とも１校にしようという考え方です。田舎だから人口が減っているのに、それに対応する策が田舎の不便な学校に集約させるのでは、少子化の対策ではなく少子化を加速させる結果になるのではないのでしょうか。</p> <p>■市内で１校に集約するならどこに</p> <p>逆の発想をすると、学校が多ければ生徒の流出を食い止められる、周辺環境も発展させれば人口流入も期待できます。とはいえ、各小学校に中学校を併設させるのはコストもかさみますので、例えば不便な南下浦中学校は廃止し、三浦海岸駅に近い上宮田小学校に上宮田中学校を新設すれば、旭</p>	<p>地域協議会での参考意見とさせていただきます。</p>

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>小学校、南下浦小学校の人は通える範囲で、剣崎小学校の人は南下浦中学でもともとバス通学です。いま直面している少子対策、将来市内1校時代になっても対応できる策、反対に人口流出を止める策をご検討ください。</p>	
4	<p>・三浦市の現状として統廃合は仕方のないものと考えが、小学生の通学に関して、統合した場合、通学時間が長くなることが予測できる。その対策として、バス通学が常識だと思うが、三浦市は予算を理由として行っていない。統合するのであれば、全地域において通学時の安全面を第一に考えていただき統廃合した際の学校運営費が浮くようであれば、予算を通学時の支援に行ってほしい。</p> <p>また、このビジョンでは三崎・南下浦地域において通学手段や経費について、児童や保護者の負担を軽減する施策検討を開始すると記載されているが、初声地域は現在でもそもそも大きな小学校学区なので、全地域で不平等感が生まれないように軽減措置を検討すべき。</p> <p>三浦市は平成28年度に三浦市立小学校適正規模に関するアンケートを行い、保護者や教員の意見把握を行った結果は1学年の学級数は、『2学級以上がよい』と回答したものが、保護者・教員ともに約95%であり、大多数は複数学級の設置を望んでいます。</p> <p>とのことだが、学校が遠くなってもよいのかどうかということについては、意見を聞いていないものと思われる。そのことも踏まえたうえで今後の方針を決定すべき。</p>	<p>通学に関する課題は十分に配慮、検討します。</p> <p>児童にとって適度な距離に複数学級の学校があることが子どもにとって望ましいと思いますが、今後の児童数の推計から難しいと考えざるを得ませんので複式学級を回避し複数学級での学校生活ができるようにしていくことが重要と考えております。</p>
5	<p>現在、小学校2年生と、来年小学校に入学します二人の子供の親として記載させていただきます。</p> <p>まず、将来的な生徒数の減少が明らかであることや、教職員の絶対数が不足していること、施設運営費の削減などを考慮すれば、小学校数の集約には基本的に賛成です。そこで、小学校を集約した後考えられる問題点と、子供の学校教育だけでなく、これからの三浦市の街の在り方についても考慮し、下記内容を提案させていただきます。</p> <p>【問題提起】</p> <p>○小学校の集約により、通学の距離面で不便を生じさせる世帯が生じ易くなり、結果、子供の通学</p>	<p>ご提案頂いた内容は、学習指導要領に則った学校教育を進める中で時期を含めて導入の可能性は常に検討すべきであると認識しています。</p>

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>利便性に不安が生じて、三浦市からの退去者が増えること（特に子育て世帯）や、移住希望者がますます減ること</p> <p>○10年後、20年後をも制度設計するためには、小学校の3校舎制で持続させられる人口目標を掲げずには、また近い将来、同様の問題に直面してしまうこと</p> <p>○そもそも、人口増を画策する移住には「生活できる仕事」が伴わなければならない、その仕事の内容についても、若い世帯には魅力を感じさせ、シニア世代には体力面などで持続可能な仕事が伴わないと、移住には繋がらないこと</p> <p>【提案事項】</p> <p>○「子供の教育」と「親の働き方」とは、ともに日々の生活に直結することであり、互いに同様の問題があると考えられます。すなわち、これからの教育制度改革と共に、子供と親それぞれの生活利便性を考慮した住まいの在り方を提案すること</p> <p>○5G技術やIoT普及による生活スタイルの変化を見越した制度設計とすべきであり、5年後の将来を見据えて先進的な「遠隔教育」を部分的に採用し、取り入れること</p> <p>○今現在、通学や通勤面で不便さを感じている世帯、及び、将来面で不安を感じる世帯に対し、三浦市版コンパクトシティ構想を造り上げ、将来に向けて住居誘導と都市機能誘導を総合的に図るべきこと</p> <p>○三浦市での働き方提案として、遠隔で業務ができる仕事を増やし、その推進をはかるべきこと</p> <p>○将来の教育制度としては、担任教師のみから受ける形ではなく、さまざまな方面のエキスパートから広く講義を受けることのほうが、より子供の世界観を広げられる可能性が高まること</p> <p>○さまざまな方面のエキスパートによる講義の受講について集団で受ける遠隔教育システムを推進させつつ、他方で、通学面を考慮した個々世帯の遠隔教育の採用には、世帯ごとの選択によるべきこと</p> <p>○学校校舎のハード面のみならず、併せて、教職員の方々の働き方に関するソフト面の充実をも焦点をあて、例えば、定期試験の採点作業など単純作業はAIに代替させ、担任教師は大まかな年間ス</p>	

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>ケジュールの進み具合の点検や、個々の生徒の生活面に関する助言など、機械ではなかなか代替できないコミュニケーション面に重点を充ててもらおうようにすることなど</p>	
6	<p>1クラス 40～45 人、1 学年 6～7 クラスで育った自分の小学校生活時代を振り返ると、今の少人数少クラスの状態は、先生方の子供達への目も行き届きやすく、他学年との交流場も多く、密な関わりを持って伸びやかな学校生活を送れているのではないかとうらやましく思っており、現状を問題であるという考えはありませんでした。</p> <p>しかし、今回の案を読むことで、年少人口の減少に伴う対策として、統廃合への取り組み推進が必要な現状にあるということを知る機会となりました。推進していく上でのメリットは多々記述されており、必要性は十分に伝わってきました。</p> <p>しかし、その反対で、デメリットに対する記述が乏しく、推進していった場合の問題点の改善解決への対応がきちんとなされていくのであろうかという疑問を感じました。</p> <p>現時点において、推進していく上での問題点として挙げられている項目は何なのか、具体的にイメージし、明確化されているのでしょうか。</p> <p>平成 26 年 4 月に三崎地区の中学校統合が実施されたとの事で、4 年が経過している現在、どのように評価されているのでしょうか。</p> <p>統合実施する際に、何の問題もなく、実施に至ったのでしょうか。反対意見などは出なかったのでしょうか。あったとするなら具体的にどのような反対意見が出て、その問題点に対しどのような改善策を導き、解決実践に移したのでしょうか。</p> <p>この 4 年間の経過について知りたいと思いました。</p> <p>推進していく上でメリットを並べるだけでなく、生じるであろう問題点及び改善・解決策を明確に示していくことも重要ではないかと考えます。</p>	<p>通学距離及び通学時間が増加することはデメリットの一つであると認識しており対応策が必要と考えています。</p>

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
7	<p>市外にある、一中一小といった三浦市の目指す形の小学校（各学年2クラス）に勤めています。また、1番上の子が市内の小学校に通っています。</p> <p>勤務校についてあくまでも私見ですが、1学年複数学級のプラス面よりも、むしろ〇〇ちゃんクラス替えで離れてしまって残念という声や、〇〇さんと違うクラスにしてほしいという要望等、マイナスの声しか聞こえず、あまりよさを保護者が実感していないように感じます。複数学級のよさについて尋ねられて Yes と答えても、実際実感できるかどうかは乖離しているように感じます。</p> <p>小中一貫教育の概念は理解できますが、同じメンバーで9年間一中一小で過ごすメリットより、むしろ現行の1～6年生は登下校の安全面を最優先に、また7年生である中学1年から新たな人間関係の広がりを図る、現行通りの学校体制の方がよいかと思えます。教員にとっては大規模校にした方が校務分掌等多少働きやすくなるのは理解できますが、何を優先させるかが大事と思えます。</p> <p>ちょっと心配しているのは、かつて財政破たんした夕張市が、破たん後小学校数校を1校にまとめたように、財政面からの統廃合も考えていないかということです。もし少しでもあるのであれば、それも明確に打ち出して議論すべきであり、考える論点も変わってくると思えます。</p>	<p>単学級の学年でクラス編成の要望が出てこないのは、声なき声と考えており、物理的に不可能な状況にあると認識しています。</p> <p>ご意見いただいたとおり何を優先させるかを検討した結果が今回お示ししました三浦市学校教育ビジョン（案）の～すべては子どもたちのために～と表現したものとご理解ください。</p>
8	<p>公立の小中一貫校がありますが、立ち上げ方、実践方法、メリット、デメリット等、具体的な内容をお知らせいただけませんか。</p>	<p>いわゆる義務教育学校のことと思いますが、今回のパブリックコメントの趣旨と相違しますので、コメントは控えさせていただきます。</p>
9	<p>基本的に三浦市学校教育ビジョン（案）に賛成いたします。</p> <p>三浦市内8校の小学校は、それぞれ伝統があり地域に根付いた教育が実践されてきたことと思えます。児童数がある程度確保されていれば、統合の必要性はないと思えますが、令和元年において、8校中5校が全学年単学級 令和6年においては8校中7校が全学年単学級ということが予測される中では、統合はやむを得ないと思えます。</p> <p>単学級は単学級なりに、教師の目が届ききめ細やかな教育ができるというメリットはあると思えますが、児童にとって教師から教えてもらう部分も大切ですが、それ以上に児童が自分の考えを持ち、お互いに伝え合い、共有し自分の考えを広げていくことがより大切だと思えます。多くの児童のいろいろな考えに触れることにより、自分の考えに幅を持たせることがこれから社会にでて活躍する児童にとって必要だと思えます。体育等においても、学級の人数が少なければチームのメンバーは</p>	<p>いただいたご意見は、今後検討していく中での参考とさせていただきます。</p>

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>固定され、チーム替えもできず児童にとっては刺激がなく授業が物足りないものになってしまうことが予想されます。令和元年において、三崎地区 南下浦地区、初声地区とも保護者の望む1学年あたり2学級を確保することができ、この状態は令和6年度においても継続される見通しであり、令和6年度の学校規模も385名、497名、392名と適正であると考えます。今後、統合にむけて考えて頂きたいことは、どこに3つの小学校を置くか。(小学校の場所) 遠くの児童の通学手段をどうするか? 統合することにより、1小1中において、児童・生徒の9年間を見通した教育課程の編成が可能になるわけだが具体的にどのように取組みを展開していくのかを3小3中に任せるとはならず、市が基本的な考えを示し、統合を契機に他市にはない三浦ならではの教育のよさを構築し他に発信して欲しいです。また、1小1中の良さは、9年間を見通して児童・生徒を教育することができる、その反面 9年間 同じメンバーで生活するため人間関係はある程度、固定化され、中学校に入学する際、小学校での人間関係がそのまま受け継がれ、中学校になっても小学校での出来事が継続されることが1つの課題だと思います。学区にとらわれず、生徒の状況に応じた学校選択等といった広い選択肢も必要だと思います。是非、1小1中になるのを契機に少しでも良い環境で児童・生徒が学習できるよう統合を機に、新しい教育のために教育予算の増額もお願いいたします。</p>	
10	<p>教育の柱はとても良く理解できます。とても素晴らしいものだと思います。</p> <p>将来の三浦の子ども達の為に、9年間の一貫した教育が施されることは嬉しく、期待も大きいです。多様性、協調性、社会性を考えると、2学級以上が望ましいのも当然分かりますし、賛同しています。が、しかし、それよりも第一に考えたいのは、6年間通いきれるか?ということであり、安心安全の条件が整っていることが最も重要だと考えます。</p> <p>●通学について</p> <p>通学における費用を全児童無料化・スクールバスの導入等、通学の問題が解消されたら、間違いなく、多くの人がこの教育ビジョンに賛成すると思います。</p> <p>京急バスで細かなルートを回るのはかなり難しいと思われるので、三浦市としてスクールバスを運行することはできませんか?幼稚園バスのように保護者に低額負担してもらうのはどうですか?</p>	<p>通学に関する課題は十分に配慮、検討します。</p> <p>人数のご意見について、複式学級は回避すべきと認識しています。</p> <p>平成28年度に行ったアンケートの回収率については、小学校の保護者が69.9%、教職員は88.8%でした。</p> <p>避難所・地域活性化のご意見について、統合後の未利用学校の活用については十分な検討が必要と認識していますが、学校教育に関することを最優先に考えております。</p> <p>地区協議会準備会について、ご意見にあるとおり進めていくこととしました。</p>

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>自宅と学校の距離が4キロ以上の子の特別優遇をぜひともお願い致します。義務教育でありながら、万単位のバス代を各家庭に負担することを強いるのは芳しくないのです。準備会で十分な意見交換ができることを切に願います。</p> <p>もしも、新たに学校を作るのであれば、広い駐車場の確保を希望します。(物理的な条件もあるので叶わないかもしれませんが、地域の目と協力が必要な学童期に、足が遠のいてしまうのは避けたいです。)</p> <p>●人数について</p> <p>保護者は、文科省の掲げる35名(40名)学級は多いと感じています。15名~25名くらいの学級を望み、目の行き届いた指導を求めているのではないのでしょうか?</p> <p>剣崎の場合、3人4人といったあまりにも少なすぎる人数だと同性の友達の中でぶつかったり協力しあったりができません。そんな環境ならば、送迎の負担は責任もつので、どうしても近隣校へ通学させたいと希望しています。ただ、もしも10名以上だったら、わざわざ学区外に行かなくても良いそうです。少なすぎない限り、少人数のメリットをいかして、なるべく家から近い小学校に通わせたいと思うのは、当然の親心ではないのでしょうか?中学校区まで広げなくても良いし、7年後といわずに、今すぐ学区外の学校に入学できるようにと、対応を望んでいます。</p> <p>指定地区外就学をもっと認めて欲しいです。市内ならば、三崎地区・初声地区・南下浦地区の枠を外して、通いやすく過ごしやすい学校を自由に選べるようにしてもらえたら助かります。</p> <p>社会に出る前に、大規模集団生活は必要だと思いますが、それは中学校に入ってからでは遅いでしょうか?</p> <p>●一貫教育と教員の育成について</p> <p>カリキュラムがちゃんと共有できれば、二小一中でも9年間の一貫教育が可能ではないのでしょうか?初声小の子は、初声中に上がる際、勉強も友達関係も良好で、今の環境に感謝しています。教育委員会がメリットを力説するのも理解できますが、何校かで乗り入れ授業・合同の校内研修を実施することで、一小一中にこだわらなくても、一貫教育はできないのでしょうか?合同の運動会や交流会などで、集団の経験・つながりを作ることはできないのでしょうか?</p>	

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>但し、小学校へ中学校の先生が教えに行くことで、中学校の先生の負担が増えないか心配という声もあります。それを思うと、副担任性や小中をつなぐ役割の先生等、余裕ある職員数の配置が理想ですが・・・。</p> <p>●三浦らしさについて</p> <p>少子化問題は深刻です。通学問題がクリアされないと、三浦から引っ越して、より都会の教育力のある便利な土地に引っ越す家庭が出てこないか、不安です。もっと三浦に住みたくなるような三浦らしい学校運営を考えてもよいのではないのでしょうか？これからの子どもには、自然体験や多様な体験の中で、AI にはない創造力やコミュニケーション能力人間性を培ってもらいたいと願っています。</p> <p>小田原市で実践している小規模特認校制度について、ご存知ですか？できることなら、三浦市に人を呼び込む方法を模索していきたいです。</p> <p>●学力について</p> <p>全国学力・学習状況調査で平均点以下という結果を、教職員保護者生徒が真剣に受け止めているか疑問があります。学力向上についてどのような見識をお持ちですか？</p> <p>福祉・農業・漁業・観光の町なので、学力全般というよりは、国際教育・情報処理に特化するのも面白いと思います。</p> <p>●避難所・地域活性化の面から</p> <p>学校は、教育だけではなく、避難所の機能も果たしているので、地域住民の防災面も気になります。各地区の避難所はどこになりますか？避難所として廃校をずっと維持することはありますか？避難所については、そこに集まる人々の避難経路も考慮されていますか？</p> <p>地域は学校を中心に活性化していくものだと思います。教育委員会の見解だけでなく、防災課や福祉課や市民協働課、市議会や市長などの見解も聞かせてもらいたいです。</p> <p>●28年に実施した学校適正配置アンケートについて</p> <p>回収率を教えてください。</p> <p>質問の内容が具体的にどんなものだったか気になります。初声地区の者ですが、他の地域の児童数</p>	

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>や通学距離も知らないままに、複数学級の学びが良いとアンケートに簡単に答えてしまったことを今後悔しています。例えば、「より良い教育の為ならば、通学時間や通学手段は考えない。」「2 学級を実現させる為なら、こどもを一時間歩かせても良い。」「雨の日は、送るのが当然だと思う。」等の項目があったら、NO と答える保護者もいたのではないかとと思います。</p> <p>統合による「デメリット」についても意見を出せる機会や場が欲しいです。</p> <p>●地区協議準備会について</p> <p>最初の会合は、三地区合同で開催して下さい。共通意識のもとスタートして、その後、地区ごとの話し合いに入れれば良いかと思っています。</p>	
11	<p>多くの人とかかわり、多様な考えが持てるよう。又、固定化された人間関係も懸念されることから1年でも早く小学校の統合を希望いたします。</p> <p>1 中学校区 1 小学校も賛成ですが南下浦地区は 2 つにする。又、必要で可能な限りスクールバスを出す（地区限定などで）支援は必要と思います。</p> <p>急速に進む少子高齢化の対策としても従来型の教育から脱却し、iPad などの活用、複数担任者、宿題の廃止など、他自治体からの入学を希望されるような思い切った変更があると良いと思います。</p> <p>当方、1 年前に東京都大田区から転居して来ましたが、市内の公園がどこも遊具の劣化が著しいと感じます。恐らく全てを不便なく手直しをするのは難しいと思うので公園も同様に 1 中学校区 1 公園の様に広い年齢層が楽しめる公園を広い区画 1 つずつ作ると市民の交流も広がるのかと思います。</p> <p>もしくは、今ある公園を厳選した後、手入れして行く所をきめて行っていくことが有難いと思います。</p>	<p>通学時の支援策については十分に検討してまいります。</p>
12	<p>少子化の進行が市内各小学校の適正配置を考えざるを得ないところまで来たことに、自身の小学校・中学校時代と比較し、改めて時代の変化を感じざるを得ません。</p> <p>良い教育環境の提供をどう進めるか、以下意見を述べさせていただきます。</p> <p>1. 単学級では人間関係が変わらずに 6 年間で過ごすことになる可能性があります。社会には様々な人々が存在するわけで、学校という集団の中で多様性を学ぶことが出来にくくなるのではと危惧し</p>	<p>小中一貫教育について、現在、初声中学校の教員が初声小学校の児童に対して授業を行っている例がありますが、働き方改革と合わせ十分に検討して参ります。</p> <p>災害時の避難場所との関係でのご意見について、統合後の未利用学校の活用については十分な検討が必要と認識していますが、学校教育に関することを最優先に考えております。</p>

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>ます。基本的には各学年複数クラスで、お互い触れ合う機会が多く持てた方が良いのではと思います。指導する教師にも相談、協議の場があるということは必要かと思えます。</p> <p>2. 個性の尊重を</p> <p>生徒の一人一人は様々な個性・可能性を持っています。画家の山下清さん、作曲家の大江光さん、ピアニストの辻井伸行さん、書家の金沢翔子さん、どなたも素晴らしい才能を発揮され、多くの人々を勇気づけています。教育は素晴らしい才能の発掘に大きな力を発揮しています。</p> <p>これからの方々の活躍を見ると一人一人の可能性に光をあてる、三浦の子供達にもたくさんの可能性を引き出せる教育を期待しています。</p> <p>3. 小中一貫教育について</p> <p>小中義務教育はこれまでもバラバラであったわけではなく、小学校教育を前提として中学校の教育は成り立っていたと考えています。</p> <p>その中で、あえて小中一貫を目指すのはこれまでの教育のどこかに不十分さがあったからでしょうか？1 中学校に1 小学校となるので教員がお互いに乗り入れ指導できるとありますが、初めての試みとなります。加重労働になりませんか？小学校の統合と小中一貫の方針提起の関係がよくわかりません。取ってつけたような感じがいたします。この点の説明が不十分のように思います。</p> <p>4. 災害時の避難場所との関係</p> <p>学校施設は災害時の避難場所にもなっているかと思えます。近年各地で大きな災害が発生しています。統合後の小学校の活用方針までは提示されていませんがこの課題も避けてはいけないと思えます。</p>	
13	<p>資料 P5～6 目指す子ども像について</p> <p>(1) 心身ともに健康で～</p> <p>(2) 郷土と日本の歴史～</p> <p>この2つの「目指す子ども像」でいいのでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様化が進む中で、ジェンダー平等の視点からも必要ではないか ・また、グローバル化とも言われる現代、「平和」を願う心や「平和」学習についても明記してほしい 	<p>複式学級の回避は必須と認識しています。その上で学習指導要領に則した学校運営をより効果的に進めていくものであるとご理解ください。</p> <p>また、統合後の未利用学校の活用については十分な検討が必要と認識していますが、学校教育に関することを最優先に考えております。</p>

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>い。</p> <p>資料 P6～7 3つの取り組みについて</p> <p>3つの取り組みの現状はどうなっているのでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教える（覚える）内容が多すぎて先生も子どもたちもアップアップの状態ではないでしょうか？ ・時数が決められていて、行事に取り組む時間がとれず、なくなっていく行事もあるとか・・・ <p>仲間づくり、集団づくりの場がなくなるとは深い学びや、児童・生徒指導の改善はむずかしいのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生の数を増やし、教材研究も十分にでき、他の先生とのコミュニケーションも十分にできてこそ学力向上、きめこまかな、児童・生徒指導ができると思います。ですから3つの取り組みと9年間を見通した教育課程～は、今まで通りで良いことで特別に新たに考える必要はないと思います。 <p>小中一貫教育と言っても同じ施設の中で・・・というのは、三浦市ではムリですよ。</p> <p>とすれば、P8の小中学校の教員がお互いに乗り入れ指導は容易になりますか。多忙の中でどのようにやるのでしょうか？</p> <p>P9. 小中一貫教育は、①少子化 ②不登校・いじめ ③学力や学習意欲 ④地域や家庭 ⑤教員の指導力向上等有効であると、とありますが、ほんとうにそうでしょうか？</p> <p>いろいろ疑問が多くなりましたが、先に「小中一貫教育の推進」があり、それをどう説明するかに重点がおかれているように思われます。</p> <p>まずは、児童、保護者、教員たちの意見を十分に聞きとってほしいと思います。</p> <p>今後心配なことは、地域から学校がなくなると、ますます人口減につながると思います。</p> <p>また、現在、各学校が避難場所となっている所は今後どうなるのでしょうか。</p> <p>児童数が少ないことをプラスと考えて、指導面、特色ある学校づくりを地域の方々と交えて創りあげる方向を考えるのはどうでしょうか。</p> <p>一番は先生の数を増やして、子どもたちや先生の笑顔がいっぱいになることです。</p>	
14	<p>私自身は、この学校教育ビジョン（案）市教委に対して、批判のための批判をしたいのではなく、逆に応援したいと思っています。（し、実際にPTAの活動としても学校における防災活動の支援に</p>	<p>一定程度の集団規模については、新学習指導要領に示されている、未来を生きる子どもたちに必要な力を養うため「主体的・対話的な深い学</p>

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>こ数年ずっと携わっています。)</p> <p>そのため、自分自身の考えとして「賛成か？反対か？」のどちらを選ぶべきなのかを決める前に、確認したい疑問点が7つと、それら疑問に対応するための一助となる提案を2つ挙げております。</p> <p>また、さらに言わせていただくと、今回の教育ビジョン（案）を契機として、保護者をはじめ私たち市民一人ひとりが、さまざまな意味で地域の拠点となり得る小学校の可能性についてもっと考えるようになればと期待もしている次第です。</p> <p>疑問1：「一定の集団規模」の想定は何人程度</p> <p>「一定の集団規模」（1ページ）とは、何人程度を想定するのか。たとえば20人？35人学級（1年生の場合）が文科省の基準だから35人？それとも100人？まったく具体的な数字がないのでイメージを浮かべにくい。</p> <p>「多様な考えに触れ、認め、協力し合い、切磋琢磨する」という目的である場合、仮に「切磋琢磨」するにはなるべく同学年の方がライバル意識も芽生えやすくても、少なくとも他の「多様な考えに触れ、認め、協力し合い」については、異年齢の子どもと交わる方が多様な経験ができるようにも思われる。例えば「100人の集団」となると多いようにも思われるが、異年齢の子どもの数（1～6年の全学年）で考えれば、全学年単学級の小さな学校だとしても、その程度（あるいはそれ以上）の規模にはなる。</p> <p>「一定度の集団規模を確保するためには、何らかの手立てを講じる必要があることは明白な事実です」（1ページ）という結論が導き出される過程において、「一定度の集団規模」について具体的に何人程度を想定していたのか確認したい。</p> <p>〈参考〉</p> <p>OECDの「図表で見る教育2013年版」によれば、日本の1学級当たりの児童・生徒数は、初等教育（小学校）が27.9人（OECD平均21.2人）、前期中等教育（中学校）が32.7人（OECD平均23.3人）となっている。どちらも日本はOECD平均を上回っている。</p> <p>〈参考〉</p>	<p>び」の授業づくりができる規模、そして、教職員が日常的に指導力向上の場（OJT）が確保できる規模、つまり、1学級の児童数としては20名～30名程度で1学年複数学級の学校規模を想定しています。</p> <p>コミュニティースクールの導入は今後の検討課題と認識しております。</p> <p>学校教育ビジョンでは学校教育に関することを基本としており、災害時の避難所及び社会教育的機能については今後の地域協議会等の中で検討課題と考えております。</p>

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>※「小さな学校」「小さなクラス」が世界の流れ http://www.kantendokoro.com/entry10.html</p> <p>疑問2:「一般論としての捉え方」と「地域住民として意見」の違いをどこまで読み込んでいるのか 教育ビジョン（案）には平成28年実施の「三浦市立小学校適正規模に関するアンケート」の結果についても以下のようなかたちで紹介されている</p> <p>~~~~</p> <p>「1学年の学級数は、『2学級以上がよい』」と回答したものが、保護者・教員ともに約95%であり、大多数は複数学級の設置を望んでいます。</p> <p>~~~~</p> <p>このアンケートには私自身も回答したが、おぼろげながら覚えているのは、この時の設問の形式が、「文科省の基準では単学級よりも複数学級が望ましいとされている」ということを紹介した上で、「望ましい学級数は？」と聞いていたように思う。そのような聞き方であった場合、“一般論として受け止めて「2学級以上がよい」と回答する人も少なからずいたのではないだろうか。</p> <p>ただし、その設問に続き「自らの学校について統合されることについてはどのような意見を持つか？」といったような設問があって、その集計結果では「現状のままでよい」という意見が多かったと記憶している。一般論として考えた場合と、わが事として捉えた場合に、そこにギャップが生じるのはよくあることではないだろうか（「そりゃあ、理屈としてはわかるけどさあ、実際にはさあ〜」ってパターン）。アンケート結果について紹介するにあたり、その受け止め方の違いをどこまで読み込んで上述のような記述になったのかを知りたい。いずれにしろ、記憶が曖昧なので確信はないので、当時の調査結果一式を確認したい（市HPを探してみたが見つからなかった）。</p> <p>疑問3: 現状のデメリットは本当にデメリットだけなのか</p> <p>～「固定化した人間関係への懸念の増大」と「一人当たりの校務の分担増による多忙化」について 教育ビジョン（案）において、小学校の小規模化が進行することのデメリットとして挙げられているのは主に3つ。</p> <p>そのうちの2つは「固定化した人間関係への懸念の増大」と「一人当たりの校務の分担増による多</p>	

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>忙化」(4 ページ)。</p> <p>「固定化した人間関係」については、仮に 30~35 人学級が複数あったとしても日常的に作られる人間関係は自然と限られてくるのではないだろうか。よほど意識的に、クラスや学年を超えた児童間の交流を促進できるカリキュラムを組み込むことができれば話は別だろうが、それぞれ 30~35 人学級の規模では、各クラス単位での運営で手一杯になるのではないだろうか。</p> <p>現在、不登校や発達障害などに対する認識や理解が広がっており、また、いじめなどの子ども同士でのトラブルにおいても、子どもと教員の間での信頼関係が重要であることはよく指摘されることである。このような課題に対しては、1 クラスの子どもの人数が少なければ少ないほどきめ細かい対応ができるといえるのではないだろうか。</p> <p>これについても最終的には規模の問題（具体的に何人くらいの集団を想定するのか）になるのかと思う。</p> <p>また、学校の小規模化による「一人当たりの校務の分担増による多忙化」というデメリットについては、統廃合により先生の数が増えれば雑多な校務も分散化できるということを指すのではないかと思う。ただ 1 クラスの子どもの数が増えることにはなるので、教職員 1 人当たりの児童数は今よりも増えることになる（神奈川県全体のデータでみると、ただでさえ全国でもトップレベルの数字となっている）。</p> <p>結局は、「校務の分担増による多忙化」と「1 クラス当たりの児童数の増加による多忙化」のバランスをどのように見極めるのか、ということに収斂するのと思うが、その過程において具体的に「一定の集団規模」の数を想定しないと、見極めが難しいのではないかと思う。</p> <p>〈参考〉 都道府県別（神奈川県は 1 位） https://ecitizen.jp/Ssds/Indicators/_E0510301</p> <p>疑問 4: 統廃合のメリットとしてあげられている「小中一貫教育」は、統廃合しないとできないのか？ 教育ビジョン（案）では統廃合のメリットとして「小中一貫教育」が挙げられている。小中学校が隣接されていけば互いの教員が行き来しやすくなるというのは確かであろう。ただ、「系統性・連続</p>	

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>性のある教育課程」(9 ページ)については、小中学校が近くになれば編成できない、ということでもないかと思う。</p> <p>小中一貫教育に先進的に取り組んでいる三鷹市の場合、施設として一体化させているわけではない。ただ保護者や地域住民が学校運営に参加するしくみである「コミュニティ・スクール委員会」が設置されていたり、「学習アシスタント」とよばれる保護者や地域住民のボランティアの方が1万7807人(平成26年度)もいる。</p> <p>要は、小中学校いずれにおいてもカリキュラムを行う際に、どこまで子どもたちに対してきめ細かい対応ができるのか、ということではないかと思う。(そして、そのためには適正な規模はどの程度かという議論も不可欠)。三鷹市のようなかたちの「小中一貫教育」について、どの程度、その可能性を検討したのかを確認したい。</p> <p>〈参考〉三鷹市の小中一貫校について～ウィキペディア(Wikipedia)より</p> <p>2009年9月、市内のすべての公立小中学校が中学校区を単位として小中一貫校へと移行。これにより、2006年4月に開園した「にしみたか学園」をはじめとする7つの学園が生まれることとなった。既存の施設や6・3制区分はそのままとし、9年間の一貫したカリキュラムの実践によって小中学校間の連携を図る、というのが主な特色となっている。また、保護者や地域住民が学校運営を支えるとともに、学校を地域コミュニティの場とする「コミュニティ・スクール」制度を導入している。学園に属する各学校名は、例として「にしみたか学園三鷹市立井口小学校」のように、従来の名称の頭に学園名を付けた形となる。</p> <p>(備考)三鷹市の市立小学校は15校、市立中学校は7校</p> <p>疑問5:小学校の持つ社会教育的な機能をどのように評価するのか(1)～災害時の避難所として学校は災害時に避難所として機能したり、日常的にグラウンドや体育館が地域の人たちに利用されている。そして、PTA活動については、保護者が教職員とともに学校運営にたずさわる市民協働の場として機能している。統廃合を検討するにあたり、このような学校教育以外のさまざまな社会教育的な機能を、どのように評価していくのかは大きな課題となるであろう。</p> <p>【災害時における避難所としての機能をどのように評価するのか】</p>	

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>→廃校になった学校施設に維持管理費をかけられるか</p> <p>→同等の収容人数を想定した、代替となる避難所を確保するのか</p> <p>→避難場所への移動時間が従来よりも長くなってしまいう市民への対応をどのように考えるか（「全員避難」となるレベル4の前段階である「避難に時間を要する人が避難」するレベル3の時点で、全員が避難すべき地域が出てくる？）</p> <p>疑問6：小学校の持つ社会教育的な機能をどのように評価するのか（2）～生涯学習や社会参加の場として</p> <p>【多様な世代の学びや健康増進、さらには世代間の交流を促進する場としての機能をどのように評価するのか】</p> <p>→子どもたち対象の地域のスポーツクラブ（サッカー、野球、バスケなど）の活動</p> <p>→中高年世代の健康寿命を伸ばす場としての機能（高齢化率の高い三浦市）</p> <p>→登下校時のスクールガード活動を通じた高齢者の社会参加（防犯、地域の安心・安全、世代間交流）</p> <p>→廃校になった学校施設に維持管理費をかけられるか</p> <p>※ただし現状においても施設利用については、受益者負担の観点から利用料を徴収することも検討すべきではないか/</p> <p>例えば利用時間数に応じて設定された利用料を振り込む形式など</p> <p>疑問7：小学校の持つ社会教育的な機能をどのように評価するのか（3）～教育現場における市民協働としてのPTA</p> <p>PTA（Parent-Teacher Association）とは保護者と教職員がともに学び、その学びを地域や子どもたちのために還元していく社会教育関係団体である。それは、保護者と行政（そして地域の人たちも）がそれぞれ役割分担し協力しあい、地域課題に取り組む市民協働の一つのかたちでもある。三浦市全域が8つの小学校区に区分けされている中で、各地区においてPTAは人口構成（さらには産業構造や屋間人口）や標高の違いなどから来る防災などの課題に対応するプラットフォームとなり得る組織である。</p>	

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>【地域課題に対して、市民協働によって対応し得る PTA 組織の可能性をどのように評価するのか】</p> <p>→小学校が大規模化することによる保護者の参加意識の低下（自分がやらなくても誰かがやるだろう）</p> <p>→地域の人たち自身による地域課題に対する問題意識や担い手としての意識の低下（身近な問題ではないし、自分は専門家でもないから行政に任せておけばいい）</p> <p>→小学校が身近な生活圏からなくなることによるコミュニティ意識の低下（防災に対する意識や地域のスクールガードさんによる見守りなど）</p> <p>上述したようなさまざまな疑問（私自身だけではなく、漠然と同様の疑問を抱いている市民は他にもいるのではないだろうか）に対応していくためには、中学校区単位だけでなく小学校区単位で地域の実情をより多角的に、そして具体的に捉えていくことが求められるであろう。</p> <p>また地域課題に対応するためには、すべて一律に行政に任せることなく、その地域の特色や独自性（良い面だけでなく課題となっている面を含め）を身近に感じている住民自身が、その課題解決の担い手となることも必要である。</p> <p>提案 1：それぞれの地域の実情に合わせた「適正規模」について具体的に議論するために</p> <p>2015 年 1 月に文部科学省が公表した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～」では次のように書かれている（3 ページ）。</p> <p>～～～</p> <p>学校規模の適正化や適正配置の具体的な検討については、行政が一方向的に進める性格のものではないことは言うまでもありません。各市町村においては、上記のような学校が持つ多様な機能にも留意し、学校教育の直接の受益者である児童生徒の保護者や将来の受益者である就学前の子供の保護者の声を重視しつつ、地域住民の十分な理解と協力を得るなど「地域とともにある学校づくり」の視点を踏まえた丁寧な議論を行うことが望まれます。</p> <p>～～～</p> <p>ちなみに教育ビジョン案では、三崎地区・南下浦地区において今年度から地域協議会準備会を立ち上げ、その後、地域協議会での検討を行う（11 ページ）とのことなので、そこで丁寧な議論がされ</p>	

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>ることになるのかと思う。その際に、上述（疑問 5～7）のような学校の有する社会教育的な機能も踏まえることで、そうした各地域の実情に合わせた「適正規模」について議論することができるのではないかと。</p> <p>地域協議会の形式についても、多様な地域の人たちが参加し、各小学校のよい点や改善したい点について（もちろん児童会の声も聴きながら）意見交換したり、「理想とする学校の姿」について少人数で話し合うグループワーク形式を取り入れ、具体的な理想像をみんなで話し合いながら固めていくことが大切ではないだろうか。</p> <p>提案：2「子どもたちを真ん中にして、あらゆる世代そして地域とともに」ある学校づくりを</p> <p>小田原市の小規模特認校である片浦小学校は、現在の児童数は95人（平成31年4月5日現在）であるが、小規模という特性を活かして、学年の垣根を越えて子どもたちが仲良くなる環境になっており、また先生が目が一人一人に行き届くため、その子に応じたきめ細やかな学習指導を行っているという（小田原市HP参照）。</p> <p>そして、子どもの教育を考えてこの地域にわざわざ転居してくる家庭もあるという。すべてを小規模特認校に、ということではないが、少子化の時代だからこそ、こうした学校教育の場を戦略的に地域づくりに活用する視点も大事ではないかと思う。（ちなみに三浦市は中学校においても学校給食を実施している県内でも数少ない自治体であることも大きな魅力だと思う）。</p> <p>また一方で、先生たちが子どもの指導に時間をかけることのできない実態（※）を踏まえると、学校に関わる地域の人たちの自覚（や時には何でもかんでも学校任せにしようとする自制）も必要となってくるだろう。それこそ、保護者として、地域社会の一員としての自覚とも言える。あるいは、学校に関わることに伴い発生する義務と責任のようなもの（もちろん楽しさも大きな割合を占める）、と言えるのかもしれない。</p> <p>（参考）※「教員の仕事時間、小中とも最長 OECD調査」～日経新聞ウェブサイトより https://www.nikkei.com/article/DGXMZ046302250Z10C19A6CR8000/</p> <p>片浦小では、児童の保護者に対してPTA活動に賛同し協力することが条件となっている。最初は嫌々ながら関わっていくことがあったとしても、さまざまな地域の人たちに支えられている学校の</p>	

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>姿が見えてきたり、そうしたかかわりを通して、自らの地域とのつながりを積み重ねていく場合もあるだろう。そうした中で、地域のあらゆる人たちが関わり協力し合うようになれば、そこにはあたたかい人の輪ができてくるのだと思う（そして実際に三浦のPTA仲間もあたたかい）。</p> <p>子どもたちが成長段階でそうしたぬくもりや安心感を身近に感じとることができれば、地域に対する愛着も自然と芽生えてくるであろうし、成人して将来の三浦の担い手となることもあるだろう。そして、それはもちろん保護者である大人（だけでなくスクールガードなどの活動を担っている地域の大人も）にとっても、地域における関係性が豊かになることで良い影響を与えるだろうし、私自身はそういう小学校であれば、市内のできるだけ多くのところにあった方がいい、と現時点で思っている。</p> <p>「すべては子どもたちのために」というよりは、学校の有するさまざまな社会教育的な機能も踏まえて、子育てをしていない層にもかかわってもらおうような「子どもたちを真ん中にして、あらゆる世代そして地域とともに」ある学校づくりという視点で考えた方が、より現実的で、しかも未来志向的な案ができるのではないかと、とも思う。</p>	
15	<p>I 教育ビジョンの策定について</p> <p>これから次第に少子化が進んでくるのは確かで、保護者アンケートで複数学級が望ましいとの意見が多かったということだが、単学級のメリットもあるはず。保護者世代は単学級を経験していないので、なんとなく、クラス替えができないのがデメリットと答えていると思います。しかし、単学級・少人数学級の学校は子どもたちのつながりが強く、お互いを深く理解し、仲が良い。児童数が少ないので、目が届きやすく、いじめに気付きやすい。多くの子がリーダーや役目を経験できる。一人一人がわかるまで、学習できる。すべての教師がすべての子どもの様子を知っていて声がかけられる。地域との結びつきが強いなど多くメリットがあるのではないのでしょうか。</p> <p>現在単学級の学校の教師保護者にメリットについても聞いてみてほしいと思います。</p> <p>幅広い人間関係が必要とのことですが、小学校の段階では、そんなに多くの人との人間関係を作るより、小さい集団のほうが落ち着いた人間関係を作れると思います。</p> <p>II 目指す子ども像について</p>	<p>複式学級の回避は必須と考えております。</p> <p>インクルーシブ教育には引き続き対応して参ります。</p>

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>4点の力の育成がなぜこの2つの子供像に集約されるのかが疑問に思います。病気や障害を持っていて、健康になりたいけれどもなれない子どももいるでしょう。そんな子どもたちにとっては厳しい目標になりそうです。また、これからは外国にルーツを持つ子どもたちも増えるでしょう。自分の住んでいるところを知る、地域の特徴生かした教育をすることはいいと思いますが、愛国心や郷土愛を押し付けることのないようにしてほしいと思います。</p> <p>Ⅲ3つの取り組みについて</p> <p>(1)(2)(3)の3つの取り組みを実効あるものにするためとありますが、なぜここで突然9年間を見通した教育課程編成と一定規模が必要なのか全くわかりません。中1ギャップといわれる問題についての対策は必要かもしれませんが、長期欠席・不登校の課題について小中一貫9年間にしたからといって解消が期待できるのか疑問です。ましてや小学校の規模を大きくすることは全く関係ないと思います。児童・生徒一人一人にあった指導やいじめや不登校の問題にきめこまやかな指導をするには、学校の規模を大きくすることよりも学級の人数を少なくし、教師の数を増やすことが必要と思います。人数が多くなる統合で教師の指導力が向上するという理論も納得いくものではありません。</p> <p>Ⅳ三浦市教育ビジョンについて</p> <p>小中一貫教育の推進といいますが、小中一貫のメリットがあまり感じられません。小学校と中学校が、一緒に校舎内にあるならともかく、離れた場所にある小中学生を一貫教育とすることで、子どもどうし、教職員どうしつながりをつくること、連続性を持たせ、きめ細やかな教育ができるとは思えません。</p> <p>今でも多忙な教員を行き来させるほどのメリットがありません。小学生と中学生は年齢的に大変開きがあって、小中一貫は中高一貫ほどの教育的効果はないと考えます。</p> <p>小中一貫では小学校高学年の児童が高学年としての責任やリーダーシップを学ばせる機会が失われます。小学校高学年と中学年の交流は今のままでもできることと思います。</p> <p>Ⅴ実現に向けてについて</p> <p>地域のお母さんがたの話を聞いても一気に小学校を中学校区に合わせて統合するというのは、強引</p>	

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>ではないかという話が出ています。子どもの通学の負担の増加、放課後遊ぶ場所がなくなる、友達が遠くなるとあそべない、地域との結びつきなどいろいろ不安があります。地域でも小学校がなくなるということで、ますます少子化が進む、避難所はどうするのか、地域住民のつながりはうすくなるなど課題が多くあります。小中一貫教育を持ち出して小学校の統合を進めようとするのは、統合の理由を作るためとしか思えません。市や県、国の財政的な理由で統合をすすめようとするのは、「すべては子どもたちのために」ということではないと思います。小さい学校、少人数学級が行き届いた教育のためには良いと私は思います。</p> <p>小学校は地域の人々がつながる場所、大切にしてきた場所です。一度なくしてしまうと再び作ることが難しいものです。これから子育てをしようとする世帯がその土地を選ばなくなります。今小学校に通っている家庭だけでなく、その地域に住む人たちの意見も聞いてください。</p>	
16	<p>今回の教育ビジョンについて、十分ではないとは思いますが「より良い方向」を目指すものとして消極的賛成の立場で意見させていただきます。</p> <p>まず、学校の公共施設としての役割が一切検討されていないことは、市の計画としてはあまりにずさんではないかと思えます。児童、市民の安全を守るための施設として、また文化的な活動を保証する場所としての学校の役割を軽視し、またそれが子供と地域の結びつきを弱めることになれば、さらなる人口流出と少子化が避けられないように思えてなりません。学校の統廃合と地域の結びつきの弱体化、市民サービスの低下については一定の相関関係があるように思います。これらをかき守るかについて、十分な検討をお願いしたいと思います。</p> <p>次に、「広すぎる学区」の問題です。自分の経験から、通学時間については「小学一年生の足で、30分以内」が理想だと考えます。実際、私は三浦ではありませんが30分の徒歩通学をしていました。慣れないうちは通学だけで疲れてしまうこともあったと記憶しています。現状のように民間バスの通る範囲のみのバス通学、それ以外は徒歩という状態では学業に影響を及ぼすことは明らかです。市の責任でスクールバスを確保することが求められます。また、今まで通り民間バスの利用を行うにしても、経済的な負担を軽減する制度をつくるべきだと考えます。その場合もバスダイヤについて事業者と交渉し、子供たちが使いやすいものにするべきだと思います。</p>	<p>学校の公共施設としての役割については今後の検討課題と認識しております。</p> <p>通学時の支援策及び施設に関するご意見については十分に検討してまいります。</p> <p>中1ギャップの問題については、地区ごとの有意の差の有無に関わらず存在するものと認識しており、初声地区での先行実施も行いつつ9年間の成果を高めていきたいと考えております。</p>

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>統廃合のタイミングについてですが、南下浦地区で4校を1校に、三崎地区で3校を1校に一気に変更する場合、既存の施設でそれだけの児童を安全に受け入れることができるのか、という疑問があります。たとえば、統廃合を2期に分け、まず最終的に集約する学校を一時閉鎖し、そのほかの学校に振り分け（南下浦2校または3校、三崎地区2校）、改修等をしっかり行った後に各地区1校に集約するという方法もあるのではないのでしょうか。そうすれば統廃合の問題点の掘り起こし、改善を実践的に行うことができますし、保護者もより安全な学校に通わせることができるのではないのでしょうか。</p> <p>現状、初声では「9年間の連続性」を重視し、実践できる状況にあると思われるが、モデル事業として初声地区で先行実施し、統廃合の時には一定の成果、経験を積み重ねたうえで実施するといったプランはないのでしょうか。今回の三浦市学校教育ビジョンで、初声地区で先行実施できるものはどんどんやっていくべきだと思います。</p> <p>ひとつ、できれば具体的に知りたい部分があります。7ページ中段、「また、中一ギャップの問題や・・・」の部分で、初声ではこれらはあまり当てはまらない部分なのかな、と感じますが、初声と南下浦・三崎中学校で有意な差はあるのでしょうか？有意な差がなければこの点に関しては机上の空論となるのではないのでしょうか。</p> <p>いま、私は子供を小学校に通わせ、少人数学校の先生と生徒の近さを実感し、複数学級の学校にはない良さを感じています。この良さをなくさないように、真に子どもたちのためになる教育ビジョンにさせていただくことを切に願っております。</p>	
17	<p>南下浦にある4つの小学校をいきなり一つにするという案にびっくりしました。確かに児童数は減っています。でもクラス替えできる方が良いという保護者の意見があるからとはいえ、小学校はその地域の学校。地域の子どもたちみんなが安心して学べる環境を作る事が私たちの役割だと思います。</p>	<p>複式学級の回避は必須と考えております。</p> <p>ご意見にあるような少人数教育のメリットが発揮できるよう進めていきます。</p>

No.	意見等の内容	教育委員会の考え方
	<p>小学校をそんなに減らして、子どもたちが安心して学べる居場所としての学校が作られるでしょうか。</p> <p>「すべては子どもたちのために」とタイトルが付けられていますが本当でしょうか。</p> <p>中学年の息子は小学校では10人のクラスでした。中学では37、8人となりました。私が驚いたのは一年生の終わり位になるとクラスの中で複数学校に来れなくなった子どもたちの存在です。息子自身も「クラスが入りにくい」と。なんとか学校に行っていますが、クラスの中が自分の居場所とは思えない、部活が居場所かもと言っていました。小学校の時はクラスは自分の居場所だったと。</p> <p>確かにクラス替えをしたことで2年生から学校に行けるようになった生徒さんもありますが、学校に来れない子どもたちがどうしてこんなに多いのか、とても心配です。</p> <p>先生方は一人一人の状況を校内で共有しながら丁寧に対応していただいているようです。</p> <p>発達障害やグレーゾーンの子どもたち、いろんな特性を持った子どもたちがいます。大きな集団の中で辛い思いをしている子、がんばりすぎて疲れている子が、ひとりも取り残されないように、すべての子どもたちに安心して学ぶ権利を保障できるように、親、地域、先生みんなのできることはなんでも協力していきたいと思います。</p> <p>世界の中でも学力が高いと言われる北欧の国ではもっと少人数で学んでいるのではないのでしょうか。</p> <p>三浦の小学校は今、せつかく少人数教育です。一人ひとりがクラスの中で自分の役割を發揮しながら学んでいる環境にあると思います。だからこの良さをもっと大事にすることはできないのでしょうか。</p> <p>南下浦地区でいうならば、せめて上小と南小の2校にするとか。通学圏の広さ、バス等の交通の便を考えても、地域のことを考えても1校にするというのは疑問です。</p>	